

日本原子力学会 核燃料部会  
令和5年度第四回運営小委員会議事録

日時 : 令和6年2月27日(火) 13:30~15:00 於 WEB会議(Webex)  
出席者 : 佐藤部会長, 尾形副部会長, 逢坂副部会長, 宇田川委員(途中まで代理: 垣内), 内川委員, 大谷委員, 片山委員, 川本委員, 樽松委員, 澤委員, 左右田委員(代理: 宇多), 園田委員, 高田委員(代理: 長内), 鶴田委員, 樋口委員, 松永委員, 森本委員, 渡部委員, 長嶺(記)

議事

1. 前回議事録等の確認(資料1)

前回(令和5年度第三回)議事録は, 確認済みであり, 配布のみ。

2. 令和5年度核燃料部会業務分担及び令和6年度核燃料部会部会長及び副部会長の推薦について(資料2, 資料2-1)

長嶺から, 令和5年度核燃料部会業務分担及び令和6年度の部会長及び副部会長の推薦について説明した。部会長に尾形委員(現, 副部会長), 副部会長に渡部委員(新任), 逢坂委員(再任)を推薦することで本年3月27日の核燃料部会全体会合で審議することとした。

3. 令和5年度収支実績と令和6年度予算について(資料3)

長嶺から, 令和5年度の収支実績(1月度反映)及び令和6年度予算案について紹介した。

4. 企画小委員会の概要について(資料4)

逢坂副部会長から, 本年2月16日に開催された企画小委員会について, 説明された。

5. MOUの改訂について(口頭報告のため, 資料5は欠番)

逢坂副部会長から, WRFPMに関するMOUの改定状況について説明された。TopFuelへの会議名称の変更については, 欧州組織の確認はとれていないが, その他改正内容については関係者で合意を得ている。会議名称の変更の確認が取れ次第, MOU改訂作業を進めていく。

6. 2024年春の年会核燃料部会・部会賞(学会講演賞)の応募状況について(口頭報告のため, 資料6は欠番)

樽松委員から, 2024年春の年会核燃料部会・部会賞(学会講演賞)の応募状況について説明された。現時点で5名の応募である。

#### 7. 部会賞（学術講演賞）の2回目受賞者への対応について（資料7）

樽松委員から、部会賞（学術講演賞）の2回目受賞者への対応について説明された。委員の意見として、①選考小委で問題視されていないことから、講演賞受賞の回数を制限する必要はなく「奨励賞への応募の推奨する」という表現を和らげるのがいいのではないかと、②講演賞は年齢制限があるため、その観点でも受賞回数の制限は必要ないのではないかと、③同じテーマで連続受賞していることが発端と考えており、同じテーマでの連続受賞に問題ないかという確認があったが、同じテーマであるかどうかは判断が難しいため、テーマに関する制限は設けないこととした。

逢坂副部長より、企画小委において受賞者のステップアップという観点から奨励賞への推奨としてはどうか、との意見が出たことを踏まえ、受賞回数の制限は設けないことを確認するとともに、2回目受賞者へは奨励賞を促す方針とするものの、現状案では奨励賞へ促す表現が強く、奨励賞の質を下げる懸念があるため、文章表現を見直すこととした。

#### 8. 2024年春の年会での企画セッションについて（資料8）

樽松委員から、企画セッションの検討状況が説明され、核燃料部会・水化学部会の合同セッションとして、事故耐性燃料（ATF）開発と水化学の取り組みについて講演及び討論を予定している旨報告された。

#### 9. 2024年度夏期セミナーについて（資料9）

宇田川委員から、2024年度夏期セミナーの検討状況が報告された。核燃料部会からの講演案について、尾形副部長より、③軽水炉燃料プラットフォーム活動の紹介や、④商用炉先行照射（LUA）の導入に向けた取り組みは電中研の担当が別であり、マージする形は難しいのでは、とのご意見があり、①軽水炉におけるMOX燃料利用の高度化に関する研究及び④商用炉先行照射（LUA）の導入に向けた取り組みをトピックスとして進めることとなった。

#### 10. 核燃料部会報について（資料10）

川本委員から、核燃料部会報 No. 59-2（2024年5～6月発行予定）の進捗について紹介された。

委員から、昨年のATFワークショップ及び第6回アジアジルコニウム会議に係る執筆の提案があり、掲載する方向で検討することとした。引き続き原稿作成に協力していくこととした。

#### 11. WRFPM2026準備状況について（資料11）

尾形副部長から、WRFPM2026の準備状況について説明された。実行委員会、プログラム委員会については本年5月頃の立ち上げを予定している。組織委員長は、大井川氏に内諾を頂いている。今後、組織委員会、実行委員会の委員については運営小委の委員を通じて人選依頼がある予定。

1 2. 運営小委員会委員の交代について（資料 12）

長嶺から、日本原燃の高田委員から長内氏、九州大学の橋爪委員から有馬氏、電源開発の大谷委員から中居氏への委員交代の申し入れがあったこと、委員交代に係る通信審議手続きに着手することを紹介した。

1 3. 第 51 回全体会議資料案について（資料 13）

長嶺から、第 51 回全体会議資料案について紹介し、内容について議論した。面着開催する（オンライン会議併用なし）こと、全体会議出席者は発表・講演・聴講がない場合でも年会大会参加料を支払うこと、部会長等の選任を審議すること等を確認した。

委員からの意見を踏まえて、国際会議の報告については核燃料部会が主催・共催した会議の必要があることから、記載案は削除し、昨年 12 月に開催された ATF ワークショップ、本年 2 月に開催された第 6 回アジアジルコニウム会議内容を記載することとした。あわせて、パネルディスカッションのパネラーの現状記載を再確認すること、部会賞の授賞式は議事の最後に行うこととした。

1 4. 第 6 回アジアジルコニウム会議（6<sup>th</sup> Asian Zirconium Workshop）について（資料 14）

資料配布のみとした。

1 5. その他

長嶺から、以下について報告した。

(1) 2024 年度原子力学会フェロー候補に核燃料部会推薦として、加藤正人様（日本原子力研究開発機構、前核燃料部会長）を推薦、フェロー認定されたこと。

(2) 核燃料部会情報メールのプロバイダーについて、学会事務局が契約している「さくらメール」を次年度も継続すること。

逢坂副部長よりウィーンで開催される TWGFPT 会合に参加するため、次回の運営小委で報告するとのアナウンスがあった。

次回、令和 6 年度第一回運営小委員会は、令和 6 年 5 月 2 日（木）13 時 30 分から WEB 開催することとした。

以 上